

福祉サービス第三者評価

〔令和6年度〕

評価結果報告書

株式会社MIRATZ
MIRATZ東尾久保育園

評価機関 有限会社エテルノ

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>（理念）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来の希望に向かって発展・向上する明るい元気な子どもを育む ・心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生き共生する子どもを育む ・みんなを親しみ愛し、太陽のようにあたたかい心を持った子どもを育む <p>（方針）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く女性をサポートし、子どもがいても安心して働ける社会づくりに寄与する価値ある組織を創造する <p>（目標）</p> <p>『一人ひとりの意欲・個性を大切にし、生きる力・豊かな心・考える力を培う』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心も体も元気な子ども ・のびのびと自分を表現する子ども ・自分で考えて行動する子ども
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの持つ個性や特性を尊重し、職員や保護者の意見を柔軟に受け止めることが出来る人 ・常に高い志を持ち自ら行動し、成長できる人 ・思いやりといつくしむ心を常に持ち続け、人の為に働ける人 <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に子どもの最善を考え保育にあたる ・専門職として、より良い保育の質の向上に努める ・地域における役割を理解し、実践していく

調査対象

保育園に通っている園児16世帯17人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。

調査方法

保育園の職員が調査票を保護者へ配布した。記入された調査票は封緘のうえ返信用封筒による郵送、または施設に設置した回収箱により収集した。結果は選択式・自由記述式ともに園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数

17

利用者家族総数(世帯)

16

共通評価項目による調査対象者数

16

共通評価項目による調査の有効回答者数

15

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

93.7

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」46.7%、「満足」46.7%の計93.4%であった。自由意見では、など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「保育時間の変更」「安全対策」「行事日程」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「トラブル対応」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」などの17問中16問が80%以上の支持を得ている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
コメント				
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	15	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	15	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「夏の暑い日が続いた際も感触遊びや、室内遊びを色々してくださって、とても工夫されていると思いました」という声が寄せられていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	15	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「家では食べないものも提供していただき、バランスよく、家ではかなりきついのでありがたいです」という声が寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	14	1	0	0
「はい」の回答は93.3%、「どちらともいえない」の回答は6.7%であった。 自由意見では、「老人ホームとの交流が複数回あります」「園庭がなく猛暑日は公園や水遊びもできない日も続くこともありますが、できる限りやってくださっていると感じます」という声が寄せられていた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	15	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「下の子どもの出産の時、融通を利かせてご対応いただき、大変助かりました」という声が寄せられていた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	13	2	0	0
「はい」の回答は86.7%、「どちらともいえない」の回答は13.3%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	12	3	0	0
「はい」の回答は80.0%、「どちらともいえない」の回答は20.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	14	1	0	0
「はい」の回答は93.3%、「どちらともいえない」の回答は6.7%であった。 自由意見では、「毎日の内容、成長、体調など、丁寧に伝えてくれます」という声が寄せられていた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	13	2	0	0
「はい」の回答は86.7%、「どちらともいえない」の回答は13.3%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	14	1	0	0
「はい」の回答は93.3%、「どちらともいえない」の回答は6.7%であった。 自由意見では、「経営層を筆頭に皆さん親切でとても、良い雰囲気です」という声が寄せられていた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	14	1	0	0
「はい」の回答は93.3%、「どちらともいえない」の回答は6.7%であった。 自由意見では、「この間は病院に連れて行って下さって、ありがとうございます」という声が寄せられていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	13	2	0	0
「はい」の回答は86.7%、「どちらともいえない」の回答は13.3%であった。 自由意見では、「トラブルがあった場合も、状況を細かく伝えてくれて、安心できる対応でした」という声が寄せられていた。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	14	1	0	0
「はい」の回答は93.3%、「どちらともいえない」の回答は6.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	14	1	0	0
「はい」の回答は93.3%、「どちらともいえない」の回答は6.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	13	1	1	0
「はい」の回答は86.7%、「どちらともいえない」の回答は6.7%、「いいえ」の回答は6.7%であった。 自由意見では、「連絡帳に細かく書いてくれるのが、ありがたいです」という声が寄せられていた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	12	3	0	0
「はい」の回答は80.0%、「どちらともいえない」の回答は20.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	10	4	0	1
「はい」の回答は66.7%、「どちらともいえない」の回答は26.7%、「無回答・非該当」の回答は6.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリ1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1		評点(〇〇〇〇)	
利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評価	標準項目		
確認済み	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		
確認済み	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		
確認済み	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		
確認済み	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		
サブカテゴリ1の講評			
<p>紙媒体とデジタル媒体を活用した利用希望者への情報提供体制が整備されている</p> <p>紙媒体として「入園ガイド」を区役所保育課に常時設置しており、メールでの問い合わせに対しては郵送でお届けする対応をしている。近隣の幼稚園に入園ガイドを置いてもらっている。また、インターネットを活用して、当園のホームページやFacebook、Instagramで情報を掲載している。デジタル媒体を活用する利用希望者にとっても情報を入手しやすい環境が整備されている。</p> <p>翻訳アプリ活用と配慮ある表記で言語の壁を越えた安心できるサービスを提供している</p> <p>当園では、利用希望者の特性を考慮し、必要に応じて翻訳アプリを使用して情報を伝えている。これにより、日本語が分からない方や会話の不自由な方に対しても、言語の壁を越えて情報を提供している。また、外国籍の方に対しては、希望を伺ったうえで連絡帳の記入をひらがなにするなど、分かりやすい表記を心掛けている。配布する手紙の内容を口頭で伝え、一緒に確認するようにしている点により、外国籍の方々が安心して園のサービスを利用できる環境が整えられている。</p> <p>見学希望の調整と安全・プライバシー配慮の徹底による保育環境の理解促進に努めている</p> <p>当園では、見学の希望日程にはできるだけ沿うよう調整し、コロナが5類に移行してからは、子どもの様子や保育者の雰囲気を見てもらえる時間帯でご案内している。これにより、見学者が実際の保育環境をよりよく理解できるよう配慮している。また、在園児の送迎時など個人情報情報が漏れる恐れのある時間帯や、午睡時を避けるようにし、見学の安全性とプライバシー保護を確保している。見学者には「ご来園シート」に記入していただき、再度の問い合わせ時やイベント申込み時に迅速に対応できるようにしている。</p>			

サブカテゴリ2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		
確認済み	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		
確認済み	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		
確認済み	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		
確認済み	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		
サブカテゴリ2の講評			
<p>サービス開始時に保護者に対して丁寧な説明を行うことを重要視している</p> <p>入園前に保護者との面談を実施し、その際に「重要事項説明書」や基本的ルールについて説明を行っている。重要事項説明書に沿った詳細な説明を行うことで、保護者が必要な情報をしっかりと理解し、基本的ルールを把握できるよう工夫されている。説明方法についても、保護者のニーズや理解度に応じて柔軟に対応し、個別対応を徹底している。このような取組により、当園では保護者が安心して子どもを預けられる環境を提供している。今後も引き続き、保護者への丁寧な説明を心掛け、質の高い保育サービスの提供を目指していくことを期待している。</p> <p>サービス開始時に保護者に対して提供する情報を明確に伝えている</p> <p>利用開始にあたり、保護者と利用契約書を結ぶことで、必要な情報を適切に伝達し、保護者の同意を得るための手段を講じている。この契約書には、サービスの詳細や利用料金、重要事項が明記されており、保護者が十分に理解した上で署名を行っている。利用契約書には保育時間や保育料が記載されており、2部署名の捺印をいただいたうえで、割り印を押して一部を保護者にお渡しし、もう一部を保管している。保護者の意見や要望、質問などは、面談や契約書の説明の際に直接伺うだけでなく、定期的にアンケートやヒアリングを行うことで把握している。</p> <p>入園前面談と慣れ保育期間の記録・共有による個別対応の徹底が行われている</p> <p>入園前の面談時には面談シートを使用し、入園時の状態を詳細に記録している。また、保護者には「入園申込書」「入園までの生活状況」「健康記録」「児童票」「緊急連絡カード」に記入していただき、これらの情報を基に、個別事情を正確に把握している。慣れ保育期間については、各家庭と十分に話し合いを行い、子どもの様子や生活リズムを考慮しながら、徐々に園生活に慣れるよう配慮している。さらに、一人一人の子どもの慣れ保育期間を毎日記録し、保育者間で共有することで、子どものペースに合わせた支援を園全体で行えるようにしている。</p>			

サブカテゴリ3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(000)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		
確認済み	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		
確認済み	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(00000)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		
確認済み	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている		
確認済み	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		
確認済み	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		
確認済み	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている		

評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	
確認済み	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	
確認済み	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	
確認済み	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	

サブカテゴリー3の講評

書類と日々の連絡で子どもの状況を把握し、ニーズ把握を行っている

当園では入園時に保護者から提出していただいた各書類、入園申込書や入園までの生活状況、健康記録、児童票、緊急連絡カードを通じて、子ども一人一人の状況を把握している。子どもや保護者のニーズは毎日の送迎時や連絡帳での遣り取りから把握している。また、年度末の保護者アンケート、保護者会や個人面談、運営委員会の事前アンケート等で定期的にニーズを把握できる機会を設けている。毎月末に月案や個人カリキュラム、児童票を記入し、1ヶ月の成長の様子を振り返り、この振り返りを基に次月のねらいを設定し計画的な保育を実施している。

複写式連絡帳と情報共有体制で子どもの成長を支える保育環境の整備が行われている

当園では、複写式の連絡帳を使用して園保管用の毎日の記録を行い、保護者に伝えない情報(嘔みつきやトラブル等)も複写した連絡帳と日誌に記載している。また、全体で共有すべき子どもの情報は、毎日の申し送りや月に1度の職員会議で共有し、記録している。2歳児までの園であるため「幼児期までに育てほしい10の姿」を特別に意識することは少ないが、保育誌などを通じて知識を得ており、育てほしい方向性についてはしっかりと把握している。これにより、子どもたちが健やかに成長するための基盤を築いている。

年間指導計画の具体化と行事の重視で子どもの健全な成長を支える保育実践

年間保育計画をもとに、クラスごとに年間指導計画を作成し、さらに月案・週案・個人案を作成している。年間指導計画は4期に分かれており、期末ごとに現在の子どもの姿と照らし合わせて修正が必要かを確認している。さらに、行事の設定においては、運動会や発表会などの「子どもに何かさせる」という行事ではなく、季節の行事や親子で一緒に楽しめる行事を重視している。このように、当園では年間計画だけでなく、月案、週案、日案にも全体的な計画や各領域の内容を反映させることで、子どもたちの健全な成長を支える保育が行われている。

サブカテゴリ5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		
確認済み	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		
確認済み	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		
確認済み	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		
サブカテゴリ5の講評			
<p>外部照会を含む個人情報取り扱いの厳格なルールと保護者同意の徹底に努めている</p> <p>当園では、外部への利用者照会等、日常の業務の中で必要な個人情報の取り扱いに対して、厳格な基本ルールを定めている。具体的には、入園時にInstagramへの写真掲載やネットでの写真販売についての承諾を保護者に確認し、書類を提出していただくことで、保護者の同意を得ている。このように、個人情報の取り扱いについては、事前に保護者への十分な説明を行い、同意を得ることを徹底している。</p> <p>羞恥心に配慮した着替えと身体測定の工夫で子どもたちの安心を支える保育を行っている</p> <p>子ども一人一人が持つ羞恥心に対して、おむつ替えの際にはパーテーションを使用し、他の子どもたちから視線を遮る工夫をしている。また、身体測定や着替えの際には、園外から見えない場所で行うようにし、必要に応じてマット等を使用して隠す配慮を行っている。おむつ替えの際には少人数で行い、便のおむつ替えの際は他の子どもがいない状況で行うことで、羞恥心を感じさせないように努めている。「すっきりしたね」などの声かけを行い、便の形状に関する情報は子どもたちに聞こえないよう声の大きさに配慮しながら職員で共有している。</p> <p>子ども一人一人を尊重する保育と職員間の学びの深化で安心な保育環境を提供している</p> <p>子ども一人一人を尊重する保育という考え方が保育所として統一されており、制作や朝の会、行事への参加などは無理強いしないよう、園内研修を通じて職員で共有し対応に努めている。参加したくない意思がある場合には、他クラスで過ごしたり、自身の興味があることをして過ごせるようにしている。また、虐待や育児困難家庭等の現状や課題の把握を保育所としての重要性を共有、研修があれば積極的に参加、園内で研修報告会を行うことで職員間での学びを深めている。また、自治体から通知があった際には職員に共有し、必要な情報を速やかに伝達している。</p>			

サブカテゴリ6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている			評点(000)
評価	標準項目		
確認済み	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		
確認済み	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		
確認済み	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている			評点(00)
評価	標準項目		
確認済み	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		
確認済み	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		
サブカテゴリ6の講評			
<p>運営本部監修による保育や調理関連のマニュアルを基本に業務の標準化を図っている</p> <p>マニュアル類は保育と調理に区分し、それぞれの分野の具体的業務やリスクマネジメント等を定めている。また、荒川区の定める保育災害応急マニュアルや区随時の避難確保計画なども活用している。園ではこのマニュアルに沿ったチェックシートの活用により業務の標準化を図っており、消防点検表では避難経路等の物品の有無や倉庫等の施錠の確認などを日次で行っている。特に調理マニュアルに従った業務の遂行には注意しており、加熱調理食品の芯温管理や使用した調理器具の消毒のほか、調理職員の体調管理を日々行っている。</p> <p>運営委員会を通じて把握した保護者の意向や要望を参考に業務内容を見直している</p> <p>園では、保育所保育指針に基づいた運営企業のマニュアルの遵守を原則としながら、荒川区の巡回指導等での助言等を活かしながら、より良い保育の実践に努めている。一方で、利用者をはじめとする保護者の意見や要望も重視しており、運営委員会や保護者アンケートから改善のヒントを得ている。マニュアルは個別にクリアファイルでマニュアルを管理し、すぐに手に取れるようにしている。マニュアルは整備されているが、身近な物として浸透し活用できるよう、職員会議で読み合わせを行うなど、日常的にマニュアルに触れる機会を設けていく予定としている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35 / 35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目			
確認済み	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている			
確認済み	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している			
確認済み	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している			
確認済み	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			
確認済み	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			
評価項目1の講評				
<p>子ども一人一人の発達や家庭の状況に合わせて保育に取り組んでいる</p> <p>子ども一人一人の発達と家庭の状況に合わせてほいくができるように職員間で情報共有を密にして保育に取り組んでいる。子どもが主体的に活動できるように環境を工夫している。日々の保育の中で子どもの発達と活動内容への保育者の関わり方について論議してクラス内で月齢別に過ごしたり異年齢保育を行うなど子どもが安心して過ごせる保育を工夫している。0～2歳児の保育園のため、子どもとの愛着関係や信頼関係を大切に子どもが自分で遊びや遊具を選べるように主体的に活動できる保育内容になっている。</p> <p>0～2歳児クラスのため子どもの発達や遊びの様子に合わせて異年齢保育を実施している</p> <p>0～2歳児クラスの保育園なので子どもの発達や遊びの興味・関心によってクラスをまたいだ保育を実施することで自然に異年齢交流ができています。戸外活動では異年齢で遊ぶことが多く、子ども同士の関わりができています。3歳児以上の子どもが在籍していないことで、積極的に近隣園と交流する機会を設け、他園の遊びの広場や園庭開放などに参加し大きいクラスクラスの子もたちと接する機会を作っている。</p> <p>噛みつきやひっかきのトラブルに対しては子どもの状態を把握し適切な対応ができています</p> <p>発達上に起こりうる噛みつきやひっかきに対しては子どもの状態を把握し一人一人の気持ちを大切にしながらクラス保育のあり方について職員間で検討を重ねている。噛みつきがあった時は毎日の申し送りを密にして状況を確認し保護者に伝え謝罪をしている。職員同士で子どもの発達状況や気持ち、子どもとの距離感や保育士の対応、保育内容の見直しなどについて検討し研修につなげている。</p>				

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(0000)

評価	標準項目	
確認済み	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	
確認済み	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	
確認済み	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	
確認済み	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	

評価項目2の講評

毎日の送迎時に保護者とコミュニケーションをとり子どもの状態を確認している

毎日の送迎に保護者とコミュニケーションをとり子どもの状態を確認している。保護者と常に情報共有し子どもの一人一人の生活リズムが無理なく過ごせるように配慮している。前日の様子や家庭での状況を確認して活動内容を変更するなど日中の保育を子どもに合わせて進めている。各クラスの連絡ボードで担当職員やクラスとの連絡を密にして伝え漏れが無いように努めている。降園時には一日の子どもの様子について保護者に口頭で伝え家庭での生活が無理なく過ごせるように保護者と連携ができています。

生活習慣の確立については年齢に合わせて保育園と保護者が子どもの状態を共有している

生活習慣については保護者に子どもの状況を伝え年齢に合わせて適切な対応ができるように支援の仕方など情報共有ができています。排せつについては保護者会で子どもの発達について伝え個人面談や送迎時に保護者と相談しながら子どもに無理のないように進めている。食事については保護者の希望があれば栄養士と話し合いの場を設けている。食事マナーについては必要に応じて保護者に伝え、保育園での様子について説明している。着替えや手洗いは子ども自身が意欲を持てるように着替えやすい服の用意や達成感を大切にしている。

前日の睡眠状況から子どもの状況に合わせて無理なく生活ができるよう配慮している

年齢や生活習慣、前日の状況や体調によって午睡の長さや時間に違いがあることに配慮して午前寝や静かな0歳児室で午睡をするなど子ども一人一人に合わせた保育を進めている。眠れない子は絵本を見るなど無理なく生活ができるように園全体で取り組んでいる。子どもの状態を見守りながら家庭と協力して生活リズムや生活習慣の確立に努めている。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目
確認済み	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている
確認済み	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している
確認済み	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している
確認済み	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている
確認済み	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている
確認済み	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している

評価項目3の講評

子どもの主体性を大切にして一人一人の興味や関心に合わせて保育を工夫している

子どもの興味や関心を大切にして机上遊びや運動遊びなどを発達と年齢に合わせて工夫している。クラスを超えてワンフロアにして遊んだり、他クラスの遊びに参加するなど子どもの思いや状況に合わせて保育空間を作っている。1、2歳児は朝の会やリズムあそびなどは子どもの興味を大切にして状況に合わせて遊びの工夫ができています。特に小さい子どもたちは愛着関係を大切にしてふれあい遊び膝上あそびなど大人との信頼関係を大切にした関わりを築く遊びを大切に取組んでいます。

子どもの興味を大切にして制作活動や戸外遊びに取り組んでいる

子どものやってみようという気持ちを大切にして環境作りに取り組んでいる。お絵描きや制作が自由にできるようにクレヨンや紙廃材などが常に子どもが手の届く場所に準備されている。近隣の公園ではボール遊びや砂遊びをしたり落ち葉やどんぐり拾いなど自然物に触れる機会を取り入れている。子どもの要求に添ってボール遊びができる公園や階段の登り落ちができる公園、大型遊具のある公園など子どものやりたい遊びを引き出しながら主体的に遊ぶ環境を活用して保育に取り組んでいる。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
確認済み	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
確認済み	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	
評価項目4の講評		
<p>季節の行事に取り組み制作活動や行事食を通して子どもが興味を持てる保育ができています</p> <p>七夕やひなまつりなど季節の行事に取り組み制作活動や絵本を観たり行事の歌を歌ったりすることで季節感や特別感を味わうことができます。行事にちなんだ給食やおやつも工夫されています。0～2歳児の保育園のため園内の行事は子どもたちが一緒に楽しむことを大切に組み組んでいます。日常生活の延長の中での行事の取り組みとして家庭では家庭では取り組むことが少なくなっている七夕やお月見などを保育に取り入れている。</p> <p>親子行事としての節分会や打ち水大作戦など園独自に行事に取り組んでいる</p> <p>夏の暑い時期に子どもたちが道路に打ち水を行い暑さを和らぐことで地域からも協力や賛同が得られている。運動会や発表会に対する保護者の希望がある中で親子参加行事として「親子節分会」を行っている。節分に向けて歌を歌ったり、制作活動を行っている。当日は保護者が子どもの歌や発表を観る機会があり、鬼に扮した職員に豆をまくなど親子で鬼退治をすることで保育の楽しさを味わうことができます。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
確認済み	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どもに対しては落ち着いて過ごせる環境作り玩具を用意している</p> <p>保育時間の長い子どもに対しては専任の保育士が午睡後から対応して安心して過ごせるように職員配置に配慮している。子どもが興味がある玩具や他クラスでいつもとは違う環境で遊ぶ機会も設けている。年間カリキュラムの中に長時間保育の対応や配慮点を記載して職員間で確認できている。</p> <p>保護者が安心してお迎えができるように連絡漏れが無いように連携を密にしている</p> <p>保護者安心してお迎えができるように連絡漏れがないように職員間の連携を密に行っている。日中の子どもの様子については口頭で保護者に伝えている。延長保育の際は遅番保育士が必ず在籍し子どもの安心感と同時に保護者の安心につながっている。職員2名に子ども2名の体制ができているため保護者が安心して延長保育を利用できている。</p>		
6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
確認済み	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
確認済み	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
確認済み	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
確認済み	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	
評価項目6の講評		
<p>子どもが落ち着いて楽しく食事ができるように環境や配置などを工夫している</p> <p>子どもが落ち着いて楽しく食事ができるように0、1歳児は保育者が向かい合わせて咀嚼の様子を確認しながら適切な援助を行っている。2歳児は友だちと向かい合わせて楽しく食べている。食事に意欲が持てるように七夕には星型にくりぬいた野菜や冷やしうどんさつまいもごはんなど季節に合わせた献立で提供されている。栄養士が各クラスを巡回し嗜好や咀嚼状況を把握し味付けや食材の切り方などを検討して子どもが美味しく楽しく食事ができるように取り組んでいる。</p> <p>2歳児と栄養士が中心に食育活動を行い野菜の栽培や収穫に取り組んでいる</p> <p>栄養士が食育計画を作成し2歳児が中心になりナスやピーマンの栽培、シイタケの栽培を行っている。野菜の皮むきなどで食材に触れる機会が設けられている。魚屋や肉やなど食材の配達時に子どもたちが調理前の食材を見たり触れる機会を作り食事に対する意欲が高められている。栽培した野菜は給食の献立に提供されたり、家庭に持ち帰ることで栄養士や子どもたちだけでなく家庭との連携で食育活動が進められている。</p> <p>食物アレルギーのある子どもに対しては保護者の了解のもとで除去食を提供している</p> <p>食物アレルギーのある子どもに対しては「アレルギー対応確認書」を保護者に提供してもらっている。医師の指示書と「保育所におけるアレルギー疾患生活管理表」をもとに除去食を提供し、献立で保護者に確認してもらっている。提供にあたっては調理、保育で確認し別食器、トレイ等で誤食がないように配慮している。体調に心配がある場合や宗教上の食文化の違いに対しては保護者に確認して形状を替えたり除去食で対応している。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
確認済み	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
確認済み	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	
評価項目7の講評		
<p>毎月の健康診断と年2回の内科健診と歯科健診を行い健康管理に努めている</p> <p>毎月の健康診断と年2回の内科健診と歯科健診を行い、保護者と共に健康に関心が持てるように取り組んでいる。2歳児卒園時に在園中に伸びた身長分の紙テープと増えた体重を野菜の重さで表現して記録し卒園プレゼントにしている。お迎え時に保護者に定期健診の状況を伝えながら成長を感じたり、健康に対する配慮点などを伝えている。園内での怪我の予防のための環境整備と合わせて保護者にはよくある子ども事故や怪我について説明し予防に努めている。</p> <p>SIDSの予防のため睡眠チェック表をつけ、保護者にも注意点について伝えている</p> <p>SIDSの予防については睡眠チェック表を記載し体位、呼吸の状況、顔貌などについて記録している。運営委員会や保護者会で午睡時のSIDSの防止について伝えている。園だよりやクラスだよりで健康について情報提供し、感染症が発生した場合は玄関に掲示すると同時に送迎時に子どもの状態について留意してもらうように伝えている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
確認済み	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
確認済み	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
確認済み	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
確認済み	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	
評価項目8の講評		
<p>保護者会や運営委員会、アンケートなどの実施で保護者の意見を運営に反映している</p> <p>当園は第三者委員、保護者代表、園長、主任で運営委員会を開催し園運営に対しての意見を提案してもらって解決に向けている。毎日の送迎時に保護者とコミュニケーションをとり子どもの小さな成長や変化を共有し子育てが楽しめる話題や対応を心がけている。連絡帳や個人面談で子どもの様子や今後の見通しについて共有できるように努めている。保育参加では保育士の関わり方や子どもの興味や発達に合った絵本や玩具を知らせたり、保育園での子どもの様子について保護者が知る機会にしている。</p> <p>クラス懇談会や行事を通して保護者同士の交流の機会を設けている</p> <p>保護者会の中でクラス懇談会を行い保護者同士の交流の機会が設けられている。親子参加の節分会では情報共有や子育ての悩みなどの意見交換の場になっている。2歳児までの小さな園の良さを生かして子どもの発達や成長についてお互いに子育ての不安や悩みを語ることができている。小さな悩みや不安を保護者同士で出し合う機会が設けられ保護者の子育てに対する安心につながっている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
確認済み	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評		
<p>近隣の保育園の園庭開放などに参加し大きいクラスとの交流の機会を設けている</p> <p>2歳児までの園のため近隣の保育園の園庭などに参加し大きい子どもたちとの交流の機会を設けている。大きい子に対する憧れや自分の意識や意欲につながり異年齢交流になっている。日常の保育とは違う経験ができる戸外活動ができている。他園の2歳児クラスの体操遊びの活動に参加するなど大きいクラスの子どもたちと交流することで卒園後の遊びや生活への見通しにつなげている。</p> <p>地域の子育て家庭に対して保育所体験や行事参加などを実施し地域支援に取り組んでいる</p> <p>地域の子育て家庭に向けて行事の参加や保育所体験、育児相談などの機会を設けている。離乳食講座、親になるための体験学習などを随時行っている。地域発信の情報誌だけでなく公園での戸外活動の際に一緒に遊び、子育て中の親子体験チケットを渡すなど保育園に気軽に来てもらえるように働きかけを行っている。</p>		

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	9/9
1	<p>評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている</p> <p>評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目		
確認済み	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
確認済み	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
2	<p>評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている</p> <p>評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目		
確認済み	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
確認済み	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
3	<p>評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる</p> <p>評点(〇〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目		
確認済み	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
確認済み	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
確認済み	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
確認済み	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		
確認済み	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
利用者保護の講評(※利用者保護の内容から3つ(必須)記載してください)			
<p>当園では、利用者の意向(意見・要望・苦情)に対して、解決に取り組んでいる</p> <p>当該法人としての危機管理マニュアルを作成し、職員がいつでも手に取れるよう保管場所を周知している。系列園での苦情案件を共有することにより、自園で同様の苦情が発生した際には迅速に対応できる体制を整えている。これにより、苦情対応が組織全体で一貫して行っている。さらに、苦情対応要綱を玄関に常時掲示し、保護者に対しても透明性のある対応を行っている。保護者からの意見や要望、苦情については、迅速かつ適切に対応するためのマニュアルを作成し、全職員に周知している。</p> <p>不適切な対応及び虐待の防止対策を組織として徹底して行っている</p> <p>虐待防止のセルフチェックリストを全職員が記入して提出し、その結果を基に園内研修を行うことで予防・再発防止に努めている。今年度は特に言葉掛けの園内研修を実施し、不適切保育防止だけでなく、言葉掛けについての共通認識を図っている。研修に参加し、研修報告を職員間で共有することで意識を高めている。虐待対応マニュアルを作成し、自治体から配布された虐待対応マニュアルも併せて、職員がいつでも手に取れるよう保管場所を周知している。登降園児の保護者・子どもの様子、着替えやおむつ替えの際の身体チェックを行っている。</p> <p>事故のリスク管理と再発防止に重点を置き、具体的な取組を行っている</p> <p>常勤の職員一人一人に対してヒヤリハット記入表を渡し、リスクが発生した都度記入するよう指導している。これらの記録は毎日の申し送り、職員間で共有され、即座に対応する体制を整えている。また、月に一度の職員会議では、特に留意すべきヒヤリハットについて再確認し、職員間で議論を行っている。園外保育記録簿には、戸外活動時のヒヤリハットを記入する欄を設けており、必ず記入して毎日の申し送りで共有している。さらに、子どもや職員が感染症に罹患した際には、玄関に感染症情報を掲示し、送迎時に口頭でも伝えている。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル①	打ち水大作戦や親子節分会など園独自の行事に保護者や地域から好評が得られている	
内容①	<p>当園は季節の行事や伝承行事は積極的に保育計画に取り入れているが、特に夏場に行く打ち水大作戦は地域の方から好評を得て協力もある取り組みになっている。昔からある路上での打ち水は夏場に暑気を払うため各家庭で行われていた営みであり、保育園として子どもたちが打ち水をすることで近所からも喜ばれ協力してもらっている。親子節分会は歌の披露や制作活動、親子の触れ合い遊びなども計画され、保護者が子どもの成長を楽しむ機会になっている。親子で鬼に扮した職員に豆まきをすることで鬼退治をして子どもの成長を願う機会として楽しませられている。</p>	

No. 特に良いと思う点		
1	タイトル	近隣保育園と交流し異年齢との関わりを通して大きい子どもたちに対するあこがれやお手本としての姿を見る機会が作られている
	内容	区の拠点園ネットワークを通して近隣園も園庭開放に参加し、大きいクラスの子ともたちと交流することで園ではできない経験ができています。大きい子どもに対するあこがれやお手本になってもらって遊びの工夫や興味が広がられている。子どもたちの意識の変化や意欲の向上も見られ成長における自信につながっている。近隣園とは職員研修やクラス担任交流会などにも参加することで、2歳児までの小規模保育園として卒園後の見通しを持った保育の計画ができています。
2	タイトル	0～2歳児までの発達上のかみつきについて子どもの状態を観察し職員間で検討を重ね保護者への報告のあり方についても推察をしている
	内容	0～2歳児までに発達上で起こりうるトラブルとしてのかみつきについて、各クラスで子どもの状況を観察し、かみつきが起こりやすい時間や場所、友だちとの関わりや間隔、生活や遊びの流れなどについて職員間で事例を参照に検討を重ねている。それに基づき保育の流れの見直しや言葉かけ、関わり方、子どもの位置や関係性を検討し直すことでかみつきの状況が変化していることに気づかされている。保護者には謝罪と共に発達上の問題として説明し理解を得られている。かみつきについては今後も事例を中心に職員間で検討を重ねていく予定になっている。
3	タイトル	0～2歳児の子どもの主体性な保育のあり方と愛着関係を大切にしたい個別の配慮について検討を重ね保育内容の確立に努めている
	内容	一人一人の子どもたちが主体的に活動できる環境を整え、活動や行事に追われることがないように興味や関心が大切にされた保育内夜に取り組んでいる。じっくり遊ぶために時間や空間、玩具を自分で選択できるようにクラスを超えてあそべる環境ができています。個別の配慮が必要な時期でもあり、保育者との愛着関係を大切にしたい保育を心掛け、一人一人の欲求や思いを受けとめた上で遊びたいものや遊びたいことを自分で選べる環境と保育内容保について実践や事例を集め、職員間で検討を重ね保育計画を作り上げることに努めている。
No. 今後の課題と思われる点		
1	タイトル	保護者のニーズにある運動会や発表会などの行事のについて子どもの主体性を大切にしたい取り組みに工夫を期待したい
	内容	利用者アンケートから運動会や発表会など子どもの成長を見る機会として運動会や発表会に対する要望は大きい。0～2歳児までもでの保育園のため子ども同士の協力や達成感を求めるのは難しさがあるが子どもが楽しく参加でき主体的に活動できる行事は職員間で検討し工夫できると期待している。保護者も子どもの成長を感じ一緒に楽しむ機会を希望していることもあり、保護者参加行事の一環として運動会や発表会など保護者が子どもの成長を共有できる行事を企画されることを期待する。
2	タイトル	感染症対応が整備されたBCPの実施に対する評価と今後の災害対策の早急な強化が求められる
	内容	園の業務継続計画(BCP)が、政府のガイドラインに沿って策定されている。想定される感染症に対応して、発生時の対処から業務復旧に至るまでの手順及び、事前の準備などが明確に記載されている。感染症のBCPについては園再開までのロードマップが整っているが、地震や台風などの災害については、被災後の園再開に向けた状況確認や人的配置について、BCPは定まっていない。今後の早急な取組が期待される。災害発生から避難、保護者までの引き渡しに関しては以前より各園の状況に合わせた対応や人員配置が整っている。